

亀老山展望台

愛媛県の大島にある亀老山は、瀬戸内海を 360 度見渡す息を呑むような眺望で長く知られています。亀老山の頂上からは、西と北には来島海峡と芸予諸島、東には燧灘、また南には今治港と今治市街を望むことができます。しかし建築家隈研吾により設計され 1994 年にオープンした亀老山展望台は、頂上からの眺めと同様に麓からの眺めも魅力的です。

2020 年東京オリンピックの新国立競技場の設計を仕切った建築家でもある隈は、人が亀老山を見たときに目立ってしまうような建物を作ることは避けたいと思いました。一つだけ問題がありました：亀老山の頂上は既存の展望公園を作るためにすでに平らに削られていたのです。隈は山の元々の頂上を再生し、それからその中に亀老山展望台を作ろうと考えました。結果は、印象的な目に見えない建築です。

亀老山展望台への来場者は山の頂上に切り込まれた切れ目の中に延びる長い階段を上ります。内部はコンクリートでできた露天の掩体壕のような構造物があり、階段や通路が様々な方向に延びています。上の階に上ると亀老山の頂上にたどり着き、ペンの一画の形を模してデザインされたルートをとどって行くことができます。多くの展望台とは異なり、すべての観光客が自撮りするために並ぶようなただ一カ所の見晴らしスポットがあるわけではありません。ルート上のすべての場所が、瀬戸内海の様々な眺めを提供しています。